

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—175057

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 77/28  
51/24

識別記号

庁内整理番号  
7123—3E  
6564—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)11月22日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑭ 付属品収容空間を設けた有蓋飲食用容器

東京都港区東新橋1丁目1番19  
号株式会社ヤクルト本社内

⑮ 実 願 昭58—68598

⑯ 出 願 人 株式会社ヤクルト本社

⑰ 出 願 昭58(1983)5月10日

東京都港区東新橋1丁目1番19  
号

⑱ 考 案 者 田口賢司

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

付属品収容空間を設けた有蓋飲食用容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

飲食物を収容し、蓋を冠帽することにより飲食物を安定に保持する有蓋飲食用容器において、蓋を凹状に成形して容器に冠帽し、容器口部周縁と前記冠帽した蓋の頂面とによって付属品収容空間を形成したことを特徴とする有蓋飲食用容器

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は飲食具や砂糖等、飲食用容器に添付すべき付属品を、容器の外周より突出することなく容器に付属させることのできるようにした有蓋飲食用容器に関する。

従来より、飲食物を充填した飲食用容器にスプーン、ストロー等の飲食具、あるいはシロップや砂糖等を添付し、飲食の際の便に供している形態の商品が多く流通しているが、

これらは次のような問題を有していた。

- (1) 容器外周縁より付属品が突出し、集積効率の悪化をもたらすばかりか容器の外観を損なうことにもなる。
- (2) 付属手段が輪ゴム止や接着等のため付属状態が不安定である。

本考案はかかる従来の付属方法における問題点を改善するべくなされたものであり、容器蓋を予め凹状に成形して容器に冠帽し、このとき容器口部周縁と冠帽した蓋の頂面とによって空間を形成し、該空間に付属品を収容せしめることによって、全く容器体積を増加させることなく付属品を付属させることのできる飲食用容器を提供するものである。

以下、図面に示す具体例について本考案を詳述する。

第1図～第3図は本考案の実施例を示す断面図である。第1図において、容器(1)に飲食品(2)を収容し、凹状に成形した蓋(3)を冠帽すると、この時蓋頂面と、容器口部周縁とによ

って形成される空間(4)が現出する。この空間(4)に前記した種々の付属品(5)を収容することにより容器体積を増加させることなく付属品を収容することが可能となる。

次に必要に応じ例えば第2図に示すように容器全体をシュリンクフィルム(6)で包装するか、または容器口部に更に外蓋(7)を冠帽することによって、付属品(5)の収容状態を安定に保持するばかりか、付属品(5)の汚染防止効果も生ずる。

なお、本考案において実施可能な蓋材としては、合成樹脂製蓋、合成樹脂加工金属箔製蓋、合成樹脂加工紙製蓋等を挙げることができる。

以上の如き本考案は、従来の容体をそのまま利用し、簡易な設備変更で実施可能であり、実施においては容器の外観を損なうことなく、また容器体積を増加させることなく安定に付属品を収容できる等の実施効果を有するものである。

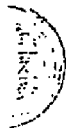
図面の簡単な説明  
4. 図面の簡易な説明



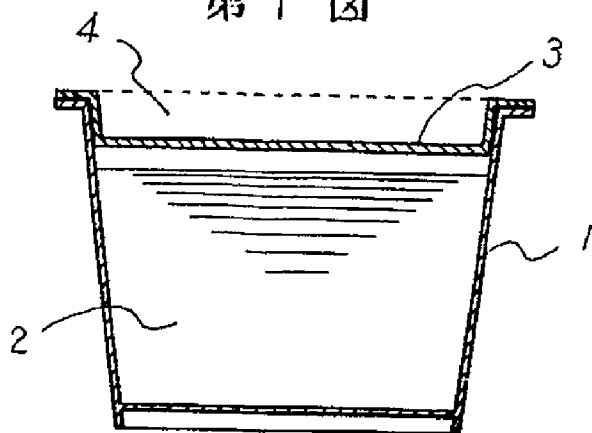
第 1 図、第 2 図、第 3 図は本考案の実施例を示す断面図であり、第 2 図は付属品収容後容器全体をシュリンクフィルムで包装した例を、第 3 図は外蓋を冠帽した例を示すものである。

実用新案登録出願人

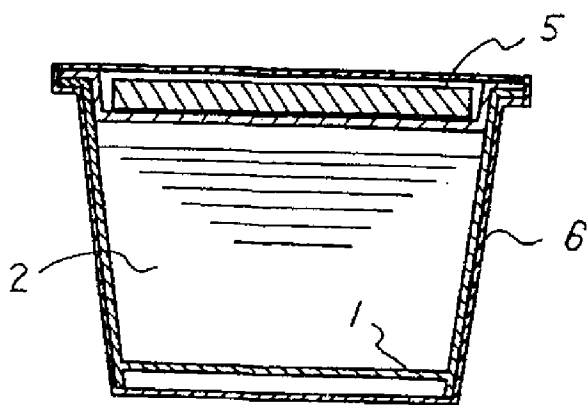
株式会社 ヤクルト本社



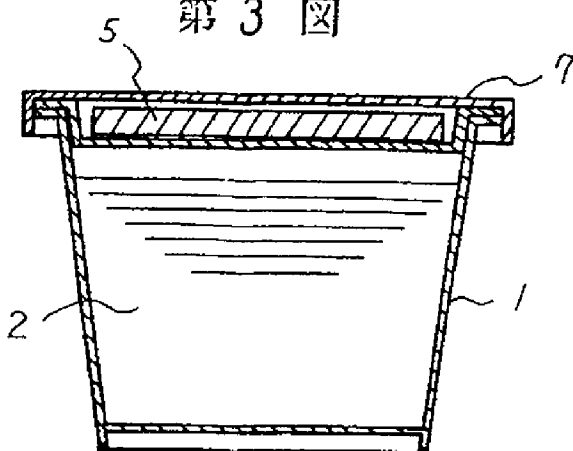
第 1 図



第 2 図



第 3 図



458

実開59-175057

実用新案登録出願人 株式会社 ヤクルト本社